

緑のまち

第5号 平成2年3月7日

発行 財団法人 日野市環境緑化協会

〒191 東京都日野市神明1-12-1 日野市役所内
電話 0425(85)1111 内線265~7



緑は心の安らぎ
(応募標語集より)

とうかん森

とうかん森

副理事長 田中 紀子

日野市の天然記念物である、とうかん森は、新井地区に住む土方一族十余軒の鎮守の稲荷社の寺社林である。面積一三九㎡の小規模ながら樹齢三百年くらい古木が八本ある。太いフジが中央の一番太い目通り三mくらい、ムクノキにからんで、さながら天に昇る竜神の姿を偲ばせる。他の四本は二・五m前後である。二本あるカヤノキの南側が雌木で、目通り二・五m。雄木は四・三m。秋、実がなると昔の子供たちは拾って火にあぶって食べたが、今は拾う人もまれなくなった。

稲荷いなりはとうかとも読み、とうか森がとうかん森とよばれるようになったのであろう。稲荷社が祀られたのは古文書によると宝永五年（一七〇八）の由である。

財団法人日野市環境緑化協会 設立一周年に寄せて

理事長 萱 嶋 泉

早いもので、当協会が財団法人として産声をあげてから一年になります。この一年、皆様の温かいご支援のもとに、関係者一同は一生懸命に働いてきました。

この法人は日野市の都市環境の向上を計るため、都市の緑化を推進して、緑の保全と育成につとめ、うるおい豊かな都市づくりに寄与することが目的であります。それでこの目的を達成するために、次の五項目の事業を行うことになっていきます。第一は緑化推進に関する啓発普及。第二は緑化推進に関する事業活動。第三は緑化推進に関する調査

研究。第四は日野市が保有する公園緑地等の受託管理。第五はこの法人の目的を達成するために必要と思われる事業以上のことがらを念頭において仕事に励んできました。

しかしこの一年には、殆んど事業を達成したが一部できませんでした。そのわけは初年度であるため、事業の全体像をつかむのに時間がかかったことと、市当局のご意向を正しく受けとめる努力がたりなかったことによるものと思えます。この反省のもとに、次年度は市当局と一体となって目的達成に邁進したいと存じます。

自然の大切さと緑について

募集作文の紹介

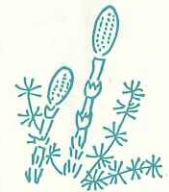
小学校六年生を対象に自然の大切さと緑について作文をお願いしたところ、各学校より一六六編の応募がありました。市内の小学校の先生数人をお願いし、入選作品十編と佳作十五編を、長時間慎重な審査を経て選びました。入選

作品十編中、五編についてご紹介いたします。

作文募集にあたり、関係の先生方に大変お世話になりました。お礼申し上げます。

協会では今後とも緑化推進事業として、六年生を対象にこの事業（作文募集）を進めていきますので、よろしくご協力をお願いします。

募集作文



日野の自然

東光寺小学校

七里 浩志

ぼくたちの身の回りには、たくさん自然があります。学校のうら山には、毎年春になると、カタクリの花もさきまします。でも、近ごろは木が切りたおされたり、田畑をつぶして駐車場や家を建てたりして、自然がどんどん破かいさ

れていきます。これからも人口が増え、商業もさかんになり、どんどん栄えていくと思いますが、それとは反対に自然はもつと破かいされていくと思えます。じゃまだからとか、土地がないといって木を切ってしまうのは、ぼくは大反対です。木は空気をきれいにしてくれる他、動物や昆虫のすみかにもなっています。そんな木を後のことは何も考えずに切ってしまう人間は、他の生物になんと思われているか心配です。きつと「ごみはち

らかすし、自然破かいはずるし」などと言われているのではないのでしょうか。ごみをすてる……それはぼくたちが一番していることです。ぼくたちはごみをその辺りにすてることをふつうのように思っています。でも一人一人が一個でもごみをすてればとてもたくさんのごみになってしまいます。自然のものならまだいいのに、人が手を加えたはっぽうスチロールやアルミまですててしまいます。たまにはみんなでごみ拾いをしますが、それはごく一部にすぎません。年々、多摩川やうら山はよ

自然の大切さについて

日野第七小学校

中川 武士

ぼくは「日本人と杉」と「川と森と人間」の二つの勉強をした。ぼくはこの二つの勉強をしたら、やっと自然の大切さや、自然（緑）がなくてはならないのだと初めてわかった。



過去のぼくだったら、自然の大切さなんてだれでも知っていることで、あたりまえのことだとしかとらえていなかった。たとえば七小の桜を見ても、ただきれいな桜をさか



すなあと思うのもさいた時だけだ。

ほくたちは(現在の子供たちは)昔の子供たちとちがって、自然の大切さを知らないと思った。たとえば木製の家具を木で作ることは知っていたが、木造家屋では、柱、けた、かもし、なげしなどにすべて杉が使われていたといことは初めて知った。今の家は人工の木があつちこつちに使われている。また障子の建具も杉材で作られていることも初めて知った。

さらに木の電柱も昔は全部杉材が使われていたとは知らなかった。それどころかほくは、コンクリートの電柱しか見たことがないので、木の電柱があつたということすら初めて知ったのだ。

日本の歴史に出てくる聖徳太子が、小野妹子を隋に行かせた和船も杉材で作られていたことを初めて知った。特に日本酒の風味を出すために杉材でなくてはならないということだ。ほくの家にも障子の建具がある。やはりそれも杉材だった。

ほかにも菓子箱や、曲げ物とか輪っばなどという容器もほとんど杉で作られているらしい。そしてもつとおどろいたことは、杉の樹皮は「杉皮」ともよばれ、屋根をふくの

に最適だということだ。葉は線香の材料として使われているようだ。

このように杉は、いろいろな物に役立ってとても便利だ。草花でも役立てることは無理だと思うが、草花は花を美しくさかすことができるからいいと思う。日光移動教室の行きと帰りのバスの中から外のけしきを見たら、美しい草花が一面に広がってすごきれいだった。

でもこのままだったら、いつかはわからないけど杉の木も草花もほろびてしまうだろう……。

だからほくは、「自然を守ろう友の会」というのに入って、人間に自然(緑)の大切さを理解させたい。(自分でも)実行してみたい。



自然の大切さ

三沢台小学校

大木 友梨子

私の家のまわりには木がたくさん生えています。家から見える家の数より木の方がたくさん見えるぐらいです。私の家からとなりの家まで二、三分歩いて行かなければなりません。家のかわりにいちよの木のくりの木が立ちならんでいます。前にも家が二軒あるだけであとはくりの木です。私の家の庭にも木がたくさん生えています。私の家はブロックの上に立っているの

で、「地しんがきてブロックがくずれたら家もくずれちゃうかなあ?」と母に聞くと、「木の根が張っているからへいきでしょう」と答えてくれました。知らぬまに木は私の家を守ってくれたのです。

考えてみると、まだ木がやっつけていたことはたくさんあります。いちばんよく感じることは、たくさん鳥が毎日かならずやってくることです。都心では見られないような鳥も何かわかってきます。朝、目がさめると「ピーピー」と季節ごとにちがった鳥の鳴き声が聞こえてきます。これは都心ではあまりないことだ

と思います。それに木があると、夏の暑い日でも木かげをつくってくれています。

もつとよく見ていけば、まだまだたくさん木がやっつけていることはあると思います。

でも、最近では木を切りたおし、駐車場や家を建てる人たちが多くなりました。昔はくわの木がたくさん生えていた所も駐車場になってしまい、ほとんど家などなく原っぱだった所も家が立ちならんでしまいました。

こうやってどんどん木をたおし自然をなくしてゆくと、鳥もいなくなり、きれいな空気もなくなつて、だれもすめない星になつてしまうのではないのでしょうか。

私たちが生活している中でも、姿をかえた木をたくさん使っています。紙、えん筆、割りばし、たんす。こういう物はだいたい木で作られています。新聞紙一年分で約丸十本分だといわれています。丸十本分もある物をやすやすとすててしまつてはもったいないと思います。あまり木をむだ使いたくないように節約しながらつかつたらいいと思います。

今、世界では「温室効果」がすすんでいるそうです。つまりフロンガスによるオゾン層の破かいです。オゾン層がなくなれば人類滅亡にもつな



をとったり、枝をおつたりしないこと。それから新聞紙はちり紙こうかんにわたして、さい利用してもらうこと。このぐらゐなら、私にもすぐできることなので、自然に少しでも協力して自然をたいせつにしたいと思います。

自然の大切さに

ついて

南平小学校

関口 朋広

がります。今の人々は自然の環境を省みずに利益だけを求めていきます。全世界ではフロンガスをはじめ環境や公害などについて話しあっています。こんど開かれるサミットもフロンガスなどについて話しあわれるそうです。

だけどフロンガスはいろいろなものに使われています。人間にとってはかかすことのできないものです。だからフロンガスは、やたらに使わず、できるだけひかえるようにすればとてもいいのではないかと思います。

オゾン層のほかに、森林の破かいが進んでいます。森林はオゾン層と共に、人間にかかすことのできないものです。日本は国内生産の木材よりも、外国からの輸入の木材の方が多いと聞きます。これは日本の森林を守るためでしょうが、外国はたまったものではありませんか。日本のせいで、はげ山がふえ、災害からのひ害が大きくなると思います。日本人は外国の木材を使っているから、日本国内のひ害は少いでしょが、日本国内でも木の切りすぎが目立っています。都会などにいる人はなんともないでしょうが、地元の人はおこっているのではないかと思います。人間にとって木はたいせつなものです。昔から

建物をはじめいろいろなものに役立ってきました。そうした木を、「使うな」とは言っても、木を使わないということは不可能なことです。だから使うだけ切つていけばいいのです。それでも木は、一度切ればまた復活するわけではないのです。だから木を切れば、なえをうえて、また自然保護にも力を入れていかなければなりません。

森林は、木をあたえてくれるだけではなく、災害から人々を救つてくれます。そうした森林を守つていきたいと思えます。

オゾン層、森林のほかに最もかかせないのは水です。水は電気、飲料水そのほかいろいろなものをあたえてくれています。また、生物の起源は水からできたといわれています。そうした水は、水質汚染などの公害によってきたなくされ、しまいに身体に異常をおこすようになってきています。こうした水は、人間がよごして、人間が飲んでいくことになりません。

です。だから、こうした自然を守つて、住みよい地球や人類を守つていきたいです。



自然の大切さ

日野第七小学校

西野 正規

この前、道を歩いているときクワガタのメスをみつけた。このあたりに、クワガタやカブト虫がほとんどいないと思つていただけ、いたんだなあと思つた。

二年くらい前、カブト山ともだちがよんでいる所に行つて、虫を取つたことが何度も何度もあった。そこには木がいっぱいあって、カナブンは今までに五十匹きぐらいつ

かまえている。そのカブト山の上の方に建物が建つた。日野は東京の中で自然の多い方だが、だんだん少なくなつていく。前は田に行くとかエルーびきぐらいつかまえられしたが、今はつかまえても見つからないのがほとんどだ。

二年くらい前は、ある神社へ行くときに横を流れているどぶ川を見ると、ザリガニがいるのを見つたり、魚が泳いでいるのを見つたりすることがあった。いまではザリガニの死体がたまにあるだけだ。

このように一、二年の間に日野の生物や自然はだんだん少なくなつていくことがわかるような気がする。

虫が少なくなつていく主な原因は、「虫を取りすぎる」「木を切りすぎる」ということその他に、いろいろなわけがあると思う。

魚やザリガニが少なくなつていく原因には、川に洗ぎいを流すことその他にいろいろあると思う。

よごれた水は、排水処理場に行つてきれいになつてから川に行くのがふつうだけれど、そのまま川にすてられる水や有害物質は、魚やザリガニの死ぬ原因だ。自然がなくなつて建物が増えるのは、いいこ

とに思えるが、本当は自然を残すことも大切だ。人間は身のまわりの環境がいいと仕事もはかどる。そのいい環境が仕事をしながら見られるのがボクの理想だ。新せんな空気が多くあるところで働きたい。都会では、虫を見たり土をいじることがあまりないが、それは町づくりがおかしいからだとボクは思う。



親子炭やき教室

森川 千賀子

「親子炭やき教室」という異例な催しがあるという。出不精な私はある種の懐しさを覚え、親子四人申し込みをした。一体、日野で炭焼きができるのかと期待と不安で一杯だった。「炭焼き小屋」というと陶芸の登り窯しか想像できなかった。講師の方に依ると焼き方は数種あるとのこと、その中で簡単にできる方法を行った。地面に薪を並べその上に枯れ葉を山のようにかけて一番最後に土を塗り固めるかの様に盛り煙突をつけるという方法である。指示に従い子供達が一生懸命枯れ葉を運んでいる。その気力に押され大人達も枯れ葉を山のように積み上げて行く。恥ずかしがり尻込みしていた二人の息子もおそろおそろの姿も見られた。ある時期迄人々の生計を支えていたであろうその仕事を、今あたかも外国人が異文化を学んでいる：奇異にさえ写るであろう自分：しかしその中に身を委ねることがなければ外国人の様に傍観していたに違いない：帰宅して息子が「これ何にも効くんだった」と顔をしか

めて葉をつけていた。炭焼きの煙を冷却してできた液体だという：その黒褐色の液体を大事に二つの空瓶に入れ飾つてある。自分の子供時代と違い息子達の時代は豊かな故に不安もある。物質的には豊かでも精神的には後退しつつある今、先人の教える機会ある度に触れさせ精神的に豊かであれと願う。息子達を外国人の様な目でそれらを見て欲しいなと思う……。

緑濃く広々とした中で久しぶりに充実した一日であった。



浦野 文子

よい天気。孫三人と心晴々と参加した。日野市に、こんなに緑深い公園の出来ていることに驚き、美しいログハウスにみとれた。「すみって蛸が口からびゅつと出すものでしょ」と言っていた子は、炭

を初めて見、太い木が変化したことを知って、びっくりしていた。耐火煉瓦で築かれた窯から、次々に光るような炭が飛び出される。目を丸くして見詰める孫達。先生方の御指導で、元氣よく炭材を新たに運び込む孫達。

広い公園の山裾では、伏焼き法で、予め三十程の深さに堀られた方形の穴に子供達が競って炭材を積み込み、上に枯葉を厚く載せている。粘土で覆いトタンを被せ、焚き口で火を入れる。反対側の煙突から細く、やがてもくもくと煙が上る。子供達の歓声が上り、感嘆の声、笑い声が絶えない。

貴重な体験とよい講話。澄んだ空気とおいしい豚汁。お蔭様で最高の一日が過ぎた。



平成二年度 事業計画 (案)

(平成二年四月一日～平成三年三月三十一日)

(財) 日野市環境緑化協会

一、緑化推進に関する普及啓発事業

- (1) 緑化月間行事 (春4月・秋11月) 家庭緑化の日

地域緑化の日
地域清掃の日

- 〃 (春4月)
- 〃 (秋11月末)

- (2) 多摩川、浅川クリーン作戦 (市と共催)
- (3) 緑の羽根募金 (市と共催)
- (4) 講習会

- (5) 新入学児童に鉢花の贈与
- (6) 会報「緑のまち」発行 2回

- (7) 自然保護、緑化についての作文集作製
- (8) 私の好きな日野のみどり写真展

- (9) 緑化市民会議 (市と共催)
- (10) PR用掲示板10基、公園内設置用100基

- (11) 盆栽山野草展
- (12) 植樹祭 (市と共催)

- (13) 二、緑化推進に関する事業活動
- (14) 入学、入園記念樹の配布

- (1) 幼保児(5才児) 種子集め運動と写真展
- (2) 花とみどりの健康相談

- (3) 育苗事業 (野草、葉草、花の里親・里子運動、
- (4) ドングリ)

- (5) コミュニティ花壇植つけ

- (1) 三、緑化推進に関する調査研究
- (2) 緑化マップの作製

- (1) 四、菊花および公園、緑化等の受託事業
- (2) 菊花事業

- (3) 花卉植付事業
- (4) 炭焼き事業

- (5) 映画「みどりの街」製作事業
- (6) 花卉栽培苗圃事業

- (7) 公園等除草・清掃事業
- (8) グリーンベルト等除草事業

春の緑化月

期 間 平成2年4月1日～4月30日
 テーマ まちに緑と清流を / くらしに花とつるおいを /

行事名	日 時	場 所
家庭緑化の日	4月8日(日) 午前9時～午後3時 ★雨天決行	日野中央公園
植物写真展	4月1日(日)～30日(日) 午前9時～午後5時	市役所 市民ホール ☆4月8日は苗木配布会場
盆栽山野草展	4月7日(土)～9日(月) 午前9時～午後3時	市役所 101会議室
生け垣講習会	4月20日(金) 午前10時～正午	緑化センター (日野中央公園南側)
園芸講座	4月15日(日) 午前10時～正午	南平丘陵公園 ★雨天 (南平西部地区センター)
自然観察会	4月15日(日) 午後1時～午後3時 ★雨天決行	南平丘陵公園
地域緑化・清流掃の日	4月22日(日) 午前9時～正午 ★雨天決行	学 校 地 区 緑 地 公 園 そ の 他
浅川グリーン作戦	4月22日(日)	浅川両岸長沼橋～新井橋
植 樹 祭	5月13日(日) 午前10時より	日野中央公園

間行事内容

主催 日 野 市
 (財)日野市環境緑化協会

内 容
1. 苗木無料配布 (柿) 午前9時から先着1000名・午後1時から先着1000名 2. 5才児以下の幼児に風船と花の種子を配布、500名に10時から 3. 小学生を対象に苗木名あてクォーター参加者500名に花の種子を配布、11時から 4. 花とみどりの健康相談 菊、庭木、花卉 5. 即売……草花、庭木、肥料等 6. 図書と絵ハガキ・日野絵図等販売 7. 緑の羽根募金 (会場で街頭募金)
テーマ「若葉の樹林と水辺」……市民の皆さんが市内で撮影した植物写真 春の盆栽と山野草展 「生け垣の作り方と手入れ」 *委員会申し込み電話で先着順40名 講 師 日野緑進会 (公園緑政課) テーマ「葉草について」 *参加申し込み電話で先着順50名 講師 田中孝治先生 前東京都薬用植物園長 テーマ「南平丘陵公園の植物等について」 *参加申し込み電話で先着順50名 指導など…日野の自然を守る会ほか
地域緑化…学校・公園等 地域清掃…他が丘・下掛地・神明グリーンベルト、東光寺緑地 東豊田緑地保全地域・吹上公園ほか、七生丘陵散策路 参加者全員に花の種子を配布 (市と共催) 記念植樹セシモニー

どんぐり拾い

「ちいさなたーねからめーをだしてー、こんなに、大きくなつたのか。」きょうもピアノに合わせて保育室から流れる子供達の歌声。

秋晴れの日に、どんぐり拾いをしました。この雑木林は子供達にとって最高の遊び場です。小さな身体ですべてを働かせて、一生懸命どんぐりを探し求める生き生きとした姿が、右に左に動き、どんぐりを見つけたらに歓声をあげ大喜びをします。まるで宝物を見つけたようです。

拾ったどんぐりを、今年は協会からいただいたプラランターに、ひとり三個ずつ、とがった方を上にしてまきました。

どんぐりのおとうさん、おかあさんは大きな木、赤ちゃんなは、このどんぐりさんノだからきつと芽がでるよ。そう信じて小さな指で土をかけてあげました。そして雑木林と同じ環境が大切なので、枯葉のお布団を一杯かけて、少ししめり気を与え、砂場の横へ一列に並べました。

ときどき枯葉の下をのぞいて芽が出たか、たしかめている子の姿を見るこの頃です。日野も今までどんぐりや、木の実拾いができた所に、だ

んだん建物が建ったりしています。この子供達に、そしてこれからの子供達に、この自然を大切に残留しておいてやりたいと思つた一日でした。

日野第二保育園
坂田 実



ふるさと博物館の 学習会に参加して

片岡 容子

博物館の前庭に、多摩川の石がカットして磨かれ、配置よく並んでいた。川原にあるただの石ではあるが、よく見るとそれぞれに顔があり、模様があり、美しく優しく、「さあ、お座りなさい。」と言っているように私達を迎えてくれた。展示室にはいろいろな日野の歴史が創意工夫して展示されている。都心から移り住んで約三十年の私にとって、日野のむかしは、多摩川の恩恵を受けた農村地帯であり、また宿場としての人々の暮しが

あつたことがよくわかつた。視聴覚機器や映像などをフルにとり入れた、川と文化のテーマも理解できた。欲を言うと、自然科学系資料を、作りのだけではなく、二十一世紀の子供達のためにも、鳥、魚、植物、昆虫等の標本を、科学の力をかり、知恵をつくして保存、展示できないものだろうか。



自由帳
◎サンシュユと
マンサク
事務局

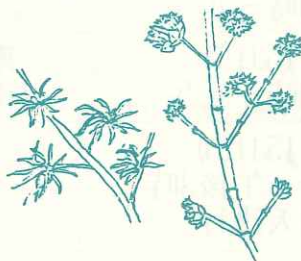
サンシュユ
高幡不動尊境内に入り、ハイキングコースを登る途中右側にすばらしいサンシュユの木があります。宮崎県民謡にヒエツキ節があります。その詩にてくるのがサンシュユの木です。サンシュユは春早く枝先に黄色い花が球状に集まって咲く、中国原産のミズキ科の落葉高木であります。幹の外皮がうすくはげやすく、小枝が対生してよく茂る。果実は赤色で種子をとってかわかしたものを山菜萸(サンシュユ)とよんで解熱強壯薬として用いられている。冬枯れ季節を過ぎ春早く(二月中旬、三月上旬)開花するために庭

木として觀賞されています。

マンサク

宗印寺(平山)境内にマンサクの木があります。早春葉がでる前に黄色い線形の四弁の花が咲きます。マンサク科の落葉小高木で山地に多く自生しているものです。宗印寺境内のマンサクは今年も多くつぼみをつけ、二月中旬頃が見頃であつた。

マンサクのいわれは花が盛んに咲いて枝に満つることから、観賞用の庭木として栽植されています。



マンサク

サンシュユ

◎草木染め

草木の中に秘められた色素をもらつて、布や革などを染める草木染めが静かなブームになっていきます。

ヨモギの葉から糸糸を若草色に、タマネギの皮でハンカチを黄色に、そしてドングリを使ってのれんを茶色に染めてみました。

どの植物も思いがけない色素を持っています。また同じ植物で染めても、その時期や育つていた場所によって少しずつ違った色あいになるのも、自然の魅力の一つです。

万葉の昔から、祭りに用いる布や人々の着物の色は、すべて草木の恩恵を受けて染め出されたものだそうです。

台所で不要になつたなべやコップ、カセットコンロなども活用しながら、古いハンカチや端ぎれを使い、きょうもまた、サザンカの花びらからあざやかな藤色を染め出すことができました。まさに自然の神秘に直接触れている気持ちです。
K・M生

▼編集のあとに▲

自然保護について小学生の作文を多くいただきました。学校の先生方のご協力を心から感謝いたします。四号に引き続き五号に作文を紹介しました。

自由帳欄を設けましたので、自然に関する意見、俳句、短歌、詩などの投稿を歓迎します。お待ちしております。

また樹木、花卉、菊作り、野菜作り等で、質問のある方は何んでも投稿してください。まとめて専門家に解答を依頼し、順次掲載していきます。